

授業科目 (ナンバリング)	処方箋解析 (事前学習) (NF416) (実践的教育科目)			担当教員	室 高広・早川 正信・大磯 茂・一木 裕子・ 末廣 真理恵・中島 健輔・大久保 伸哉・兼任 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義・演習 ・実習	単位数	3 単位	開講年次・時期	4・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<p>本学薬学部薬学科のディプロマポリシーである、高度化・複雑化する医療や薬学に関する諸問題について、有用な科学的データを選択し、自ら論理的に思考・判断できる、薬剤師としての基本的な技能を有し、実践することができる、薬剤師として十分なコミュニケーション能力を備えている、薬剤師として個々の患者や医師・看護師等に薬の情報を的確に提供することができる、薬剤師として社会の医療ニーズに対応するために必要な知識を備えることなどを目的とする。特に、卒業後、医療、健康保険事業に参画できるようになるために、病院実務実習・薬局実務実習に先立って、大学内で調剤鑑査、疑義照会、リスクマネジメントなどの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度を修得することを目標とする。</p>							①②④⑥⑦
学生の授業における到達目標						評価手段・方法	評価比率
専門力	調剤薬鑑査、疑義照会及び持参薬鑑別に関する基本的知識(代表的な疾患に使用される医薬品の効能・効果、用法・用量、禁忌、相互作用などを含む調剤上注意すべき事項に関する基本的知識など)を修得する。リスクマネジメントなどの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度を修得することができる。				随時試験 (実技) (小テスト)	50% 10%	
情報収集、 分析力	医療情報から適切な調剤鑑査、疑義紹介、持参薬チェック、安全管理をするための分析ができる。				随時試験 (レポート)	20%	
コミュニケーション力	調剤鑑査、疑義照会、持参薬チェック、安全管理に関する基本的なコミュニケーション力を修得することができる。				随時試験(実技)	10%	
協働・課題 解決力	調剤上の危険因子とその対策などに関する基本的技能を修得し、調剤鑑査、疑義照会、安全管理に関する基本的な協働・課題解決力を修得することができる。				随時試験(実技)	10%	
多様性理解力							
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
随時試験結果を100%とし、実技試験・小テスト・レポートで評価する。							
授業の概要							
<p>病院・薬局の勤務経験がある教員が、実務経験で得られた知見や事例等を取り入れ、実習を展開する。教科書、実習書を主体とし、これに参考書や配布資料等を補助的教材として用いて講義、実習を行う。講義、実習(模擬医師による疑義照会のロールプレイ及び模擬薬局でのリスクマネジメント)、グループ討議(SGD:模擬処方せんによる処方せん解析)を行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書:スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅲ チーム医療および地域の保健・医療・福祉への参画(東京化学同人) 治療薬マニュアル(医学書院)</p> <p>参考書:スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅰ 臨床薬学の基礎および処方箋に基づく調剤(東京化学同人)</p> <p>指定図書:スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅱ 薬物療法の実践(東京化学同人)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>病院実務実習・薬局実務実習に先立って、大学内で調剤鑑査、持参薬チェック、リスクマネジメントなどの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度を修得するための事前学習のひとつの科目です。実務実習のことも想定して取り組んでください。講義と実習は連動しているので実習はもとより講義を欠席しないようにしてください。教科書、配布されたプリント及び参考書等を利用して予習・復習をしっかりとるようにして下さい。講義中および講義後の質問は大いに歓迎します。※質問は、基本的に在室中は可能ですので、担当教員のオフィスを訪ねて下さい。 (薬学研究棟 P302:室、P311:早川、P412:末廣)</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習	到達目標番号*
1	処方せんに基づく調剤： 法令・規則等の理解と遵守	講義：「調剤業務に関わる事項（処方せん、調剤録、疑義照会等）の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて」。 （担当教員、外部講師）	教科書・実習書・ 配布資料確認	910
2	処方せんに基づく調剤： 処方せん鑑査と疑義照会	講義：①処方せん監査の法的根拠を説明し、薬剤師の「責任」について。②「疑義照会の法的根拠を説明し、薬剤師の「責任」について」。 （担当教員、外部講師）	教科書・実習書・ 配布資料確認	916, 917, 918
3	処方せんに基づく調剤： 処方せん鑑査と疑義照会	実習：代表的な疾患（4疾患：がん、高血圧症、糖尿病、心疾患）の模擬処方箋を使って （担当教員、外部講師）	教科書・実習書・ 配布資料確認	919, 932
4	処方せんに基づく調剤： 処方せん鑑査と疑義照会	実習：代表的な疾患（4疾患：脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症）の模擬処方箋を使って（担当教員、外部講師）	教科書・実習書・ 配布資料確認	919, 932
5	処方せんに基づく調剤： 調剤薬鑑査	処方せんに基づき調剤された薬剤の鑑査を行う。 （担当教員、外部講師）	教科書・実習書・ 配布資料確認	919
6	処方せんに基づく調剤： 持参薬チェック	診療録サマリー、お薬手帳、持参薬を利用し、持参薬鑑別シートを作成する。（担当教員、外部講師）	教科書・実習書・ 配布資料確認	987
7	安全管理	講義：代表的な抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬の特徴と注意点（担当教員）	教科書・実習書・ 配布資料確認	973
8	安全管理	代表的な疾患に使用する具体的な医薬品の公表されているリスクマネジメントプランについて（担当教員）	教科書・実習書・ 配布資料確認	978
9	安全管理	処方オーダリングシステムおよび電子カルテについて（担当教員）	教科書・実習書・ 配布資料確認	915
10	随時試験	概略評価と実技試験	教科書・実習書・ 配布資料確認	

注）上記の第1回～第10回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

*到達目標番号と到達目標の対応は、巻末のコアカリ SB0 番号／項目対応表を参照して下さい。

実習サポート教員：相田 美和